

会 議 録				
平成 19 年度第8回 社会教育委員の会議	日 時	平成 20 年1月28日(月) 午後2時 00 分～4 時 00 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出席者	委員	井土、伊藤、浦野、倉持、小林、田尻、田中、彦坂、本川各委員 (欠席) 武田委員		
	その他	石川生涯学習部長、伊藤生涯学習課長、林スポーツ振興課長、田中図書館長、中嶋公民館長		
	事務局	木村生涯学習係主事、		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 報告事項				
(1) 管外視察研修について				
(2) 平成20年成人の日記念行事について				
(3) 地域参加講座の結果について				
(4) 総合体育館プール還水槽改修工事について				
(5) 第45回東京都公民館研究大会について				
(6) その他				
2. 協議事項				
(1) 第5ブロック研修会テーマについて				
(2) 生涯学習推進計画の改訂スケジュールについて				
(3) 三者懇談会について				
(4) その他				
1. 報告事項				
(1) 管外視察研修について (田中議長)				
<p>昨年(平成28年)の11月21日に羽村市の生涯学習センターゆとろぎと、福生市の輝き市民サポートセンターへ視察に行き、施設及びそこで行われている活動について話を聞いてきた。ゆとろぎは非常に大きく立派な建物で、図書館とも道路を跨いで繋がっている。福生の輝き市民サポートセンターは小さな施設ではあるが、駅から直結した建物の中にスペースがあり、市民団体等が活発に活動している様子が窺えた。これらの施設見学を通じて、小金井に新しくできる市民交流センター等に生涯学習の機能を持たせる際の参考となった。</p>				
(伊藤委員)				

羽村市の施設は大きく立派な施設で、力を分散させずにゆとろぎの一点に集中させている。また、福生市の施設は小さいが動きやすく、利用する団体同士の繋がりが深いのではないか。両施設についてはそれぞれ切り口が異なっており、ゆとろぎは生涯学習センターということで文化活動が中心、輝き市民サポートセンターはまちづくりの中心となっている。このような取り組みは小金井市においてもやれないことはない。まずはソフト面での全体の青写真が必要だろう。

(倉持委員)

視察に参加できなかったので質問をしたい。福生の施設は担当部署が生涯学習関係課ではなく、協同推進課となっているが、学習施設ではないということか。

(伊藤委員)

福生市は学習施設としては公民館組織を別に持っており、生涯学習活動は公民館を中心に実施されているのではないか。一方、羽村市には現在、公民館という組織はなく、ゆとろぎが生涯学習センターとなっている。

(田中議長)

福生市の施設はフリースペースのようになっていて、空いていれば予約がなくても使用することができる。社会教育関係の職員ではなく、市内で活動されている方たちが事務局を担っている。

(井土委員)

福生の施設は入口が改札口と同じフロアにあり、駅から直結したビルの中にある。

(彦坂委員)

私が所属している団体でもゆとろぎを使用させてもらったことがあるが、素晴らしい施設だ。会場設営等、職員が丁寧に世話してくれ、小金井市に新しい市民交流センターができる際の良い手本になる。

(倉持委員)

ゆとろぎの職員は正規職員なのか。

(小林委員)

ゆとろぎには中に生涯学習課があり、正規職員が入っている。福生は嘱託職員。

(田中議長)

職員以外にも多くのボランティアがいて、みんなで盛り上げている。

(浦野委員)

ゆとろぎは、発表の場としてだけでなく、フロアで子どもがカードゲームや宿題をしたり、親子で絵本を読んだりしている姿があった。日常の居場所としての機能もしている。

(小林委員)

図書館も併設しているので、子育て世代にとっては安全・安心な場所である。生涯学習という位置づけだが、文化センターとしても利用しやすい施設となっている。

(田中議長)

安全・安心というのは大切なキーワードだろう。

(本川委員)

生涯学習センターでのボランティアの活動が、無償ボランティアと有償ボランティアが半々というのが、小金井にはない風土だと感じた。福生市では、各団体や活動ごとに個々に活動保険や行事保険をかけるのではなく、活動者全体に市で一括して「市民活動災害保険」を掛けている。考え方や見方を変えると色々な方法が出てくる。

(田尻委員)

羽村市の公民館組織は初めからなかったのか、なくなったのか。各地域に公民館があるのではなく、ゆとりぎ一箇所に集中してしまうと市の端に住んでいる方にとっては使用しづらいのではないか。

(伊藤委員)

生涯学習センターから遠くに住んでいる人にとっての利便性という点については質問をしそびれてしまった。

(中嶋公民館長)

以前27市あった頃は、清瀬市以外の全市に公民館があったので、羽村市は生涯学習センターゆとりぎとなった。昨年1月に調査した際は、正規職員が12人。

(2) 平成20年成人の日記念行事について

(伊藤生涯学習課長)

1月14日の成人の日記念行事には多くの委員さんに出席いただき、ありがとうございました。平成19年度成人の日記念行事は、平成20年1月14日(月)成人の日に中央大学附属高校で行われた。例年通り、貫井囃子保存会、着付直しは国際ソロプチミスト東京一小金井、生け花は小金井文化連盟華道部、受付は小金井市スカウト協議会にご協力いただいた。庁内の体制としては、会場整備等に教育委員会各課、行政管理課、管財課の職員の協力があった。地域の多くの方に支えられ、混乱なく実施されたことに感謝したい。

19年度の対象者は1373人。うち出席者が685人で49.9%の出席率であった。昨年は対象者が1306人、出席者が608人であった。今年度は実数で80人、割合としては3%の増で、近年では最も高い数値となっている。今年度の全国の成人は12万4千人で、16年間連続して減少しており、少子化の傾向を示している。学校施設を借りているため、軽食や餅つき等の飲食は行わず、FC東京の3選手からビデオメッセージと、サイン入りユニホームやペアチケット等の賞品を提供してもらった。昨年度の反省を踏まえ、写真撮影場所の設置、協力団体の紹介、着付けなおしの案内、諸注意についての改善等を図った。

(3) 地域参加講座の結果について

(伊藤生涯学習課長)

今年で三年目の講座実施となった。一年目は年に1回、二年目以降は年に2回春と秋に実施。今年度は12月15日に終了し、参加者は延べ146人。12月15日に開催した「地域で暮すための出会いパーティー」では、31人の出席があった。今後、団塊世代が地域に回帰してくるため、様々な活動をしてもらい、地域の活性化を図り、健康で生きがいを持って暮していけるような場所を提供するためにも、来年度以降も実施していきたい。

(4) 総合体育館プール還水槽改修工事について

(林スポーツ振興課長)

総合体育館のプールについては昨年7月の還水槽の破損事故以来、還水槽を使わずに循環濾過を行い、通常よりも水位を下げて営業していた。今年の1月9日から、現場での組み立て・取り付け作業を行い、1月21日の休館日に還水槽の試運転を行い、翌1月22日から通常どおりの水位で営業を再開している。

(5) 第45回東京都公民館研究大会について

(中嶋公民館長)

平成19年12月16日(日)午前9時30分から昭島市市民会館で第45回東京都公民館研究大会が開催された。全体会のテーマは、「新しい時代の公民館」。公民館を取り巻く環境が大きく変化しているなかで、今後の役割やあり方などを探る機会となった。東京都公民館連絡協議会田中会長から主催者挨拶、東京都教育委員会教育長代理、昭島市北川市長、昭島市教育委員会木戸教育長の来賓挨拶、次期大会事務局市町田市の落合公民館長からメッセージがあった。昭島市青少年吹奏楽団の演奏の後、「新しい時代の公民館」と題して、東京学芸大学の小林文人名誉教授による基調講演があった。全体会参加者は410人、小金井市からは44人の参加があり、午後は6つの課題別集会在実施された。各市の財政など厳しい状況があり、公民館が直面している現状を知り、話し合うことができた。

(6) その他

・東京都市町村社会教育連絡協議会交流大会について

(井土委員)

平成19年11月17日(土)東大和市ハミングホールで開催された。小金井市社会教育委員の会議からは武田委員・伊藤委員・私の3人の委員と中島主査が事務局として参加。感謝状の表彰があり、前議長の福島さんが出席された。本年の統一テーマ「地域をいきいきとする社会教育—すべての人が輝けるまちづくりのために—」に沿った各ブロック研修会の実施報告があった。小金井市が参加する第5ブロックは、10月20日に調布市たづくり会館で開催された研修会の報告がされた。社連協の木崎常三郎会長による基調提案は、人と人との係わり・人づくり・地域づくりに今までに

も増して市民や行政が協同で取り組むべき課題であるという内容。ディスカッションでは、人が「個」になってきている、という話や、現在の社会教育は学校中心であるが、地域と学校・家庭をどのように結ぶことができるのか、といった話等が出た。

(田中議長)

小金井市からは福島前議長、君塚・兼森前委員の3人が感謝状を受賞している。

(伊藤委員)

基調講演の中で、これからの社会教育について話があった。教育基本法の改正に伴い社会教育の目標等もかわるのではないかと、地方自治体や国の役割の見直し・社会教育主事の見直しが必要、学校・家庭・地域の連携・協働、社会教育主事をコーディネーターとして学校に配属できないか、社会教育委員の役割の見直し(社会教育の規制緩和により任意に設置できる可能性があり、社会教育委員自体の要不要が問われることも有り得る)、社会教育施設の見直し、家庭教育の見直し(公の立場としてどこまで家庭教育に入り込んでいけるのか)、奉仕活動教育の見直し等が提示された。

(田中議長)

来年度は小金井市が第5ブロック幹事市となるため、研修会を行う必要があり、来年度の交流会等では代表として報告していくことになる。

・神奈川県相模原市からの行政視察について

(中嶋公民館長)

全国機関誌「社会教育」12月号に掲載された、優良公民館表彰受賞のインタビュー記事を見て、2月6日(水)午後1時30分から視察研修を行いたい旨、相模原市立星が丘公民館より通知があった。視察の目的は小金井市の企画実行委員制度等についてであり、本館企画実行委員の末包委員に説明をお願いした。当日は教育長・生涯学習部長・公民館運営審議会委員長等が出席予定。視察の結果については、次回報告する。

・野川駅伝大会について

(林スポーツ振興課長)

スポーツ振興課主催の第4回野川駅伝大会が1月20日(日)に都立武蔵野公園くじら山周辺で開催された。昨年までは、教育委員会の後援事業として行われていたが、今年度は市長会の多摩島しょ子ども体験塾助成金の予算が取れたので、主催事業としてNPO法人黄金井倶楽部に委託し、実施した。参加チームは計50チームで、昨年に比べ大幅に増え、中学生女子の部も新設された。また、小金井消防署・小金井市トリアスロン連盟・小金井公園走友会の大人の3チームからオープン参加があり、大会を盛り上げていただいた。小金井消防署によるAEDの講習会を会場の一角で行い、中学生代表や応援に来ていた保護者等にAEDの使用講習を行った。

2. 協議事項

(1) 第5ブロック研修会テーマについて

(田中議長)

来年度の第5ブロック研修会を、小金井市が幹事市として開催する。これまでは、おおよそ9月の中旬に研修会が開かれ、11月に全体交流会という流れである。今年度は「地域をいきいきとする社会教育」という大テーマのもと、各ブロックが小さなテーマを作り実施している。来年度の実施にあたって、何かよい案等あれば提案して欲しい。7月頃には、ブロック内の各市に案内を出すことになるため、それ以前に研修会内容を決めておかなければならず、どのような方法で行うか等を3月末くらいまでには決め、実際の取り組みに向けて準備していく。講師を呼び講演をしてもらってディスカッションするというパターン、パネラーを用意し問題提起したものに関してフロアと意見交換をするというパターン、施設見学等を行ったり教室に参加したりする体験型のパターンなどが考えられる。

(本川委員)

教育というのは学校教育・家庭教育・社会教育の連携というのが大事。それぞれ役割は異なるが、オーバーラップする部分もある。これからの世代を担っていく子どもたちのためにという観点から、地域の連携・人と人とのつながり・行政とのかかわりの中で科学の祭典に取り組んだ。何かテーマを掲げるときには熱意と実行力が重要。ブロック研修会においても、忌憚なく意見交換をし、テーマを組み立ていけるとよい。具体的なテーマに、地域で活動している思いをつなげていければよい。

(田中議長)

全体の交流会の統一テーマが決定するのは4月頃になるかと思う。予算的にも限りがあり、講師を依頼するとしても会場費等を考えると、ボランティアに近い形でやっていただくざるを得ない。大掛かりなものというよりは、手作りの研修会になる。

(井土委員)

これまで3回ほどブロック研修会に参加しているが、国立大学の先生等が基調講演することが多い。お茶が出るくらいなので、会場費がかかるくらいかと思う。予算的にはそれほど問題はなく、やり方次第ではないか。ただ、小金井は現在会場がないので、場所をどうするかという点がある。第5ブロックでは50人前後の委員が集まる。

(倉持委員)

自分たちが、出てみたい・意味がある、と思えるようなものを作っていくのが良い。大学の先生の講演等は他の機会でも聞けるので、小金井にいる実践者の方たちの事例報告、あるいは実践者同士に登壇してもらい、大学の先生をコーディネーターとしてはどうか。先生のお話というよりは、実践事例を聞いて、それらをつなげるような司会進行を有識者の方にしてもらおう等、その後の委員の活動に役立つ内容だと面白い。

(田中議長)

実際に地域の中で様々な活動をしている方たちを結びつけるような方式は良い。公民館活動等も活発なので、そのような人たちにも出てきてもらってはどうか。農工大の繊維博物館でも様々なサークル等が活動しているし、公民館や図書館でもたくさんのサークルや団体が活動しているので、実際に地域で活躍する人たちの話を聞ければ、小金井市の宣伝にも活動団体同士のつながりの場にもなる。

(倉持委員)

普段は繋がりがなく、別個に活動をしている人たちを呼んで、どのような繋がりが見えてくるか。繋がっていることが実感できるような場になると面白い。

(本川委員)

団体が細分化され、横の繋がりを持とうと思っても持ちにくいというのが現状。そこをどのように繋げていくか。地域全体を考えたときに価値のあるものになる。

(彦坂委員)

前回の提言に沿った「ネットワーク作り」に繋がっていく研修会になると良い。

(倉持委員)

キーワードは「繋がり」「ネットワーク」というあたりになるのではないか。

(伊藤委員)

国は、学校地域支援地域本部事業を文科省主導で、約500億の予算内でプロジェクトを実施する予定。コーディネーターが、登録されたボランティアの中から学校が必要とする人材を探し、提供する。このプロジェクトがまさに今話題に上っているものに当てはまるのではないか。

(田中議長)

前回出した提言では、コーディネーターにより、各地域から集めた人材を全市的に統括し、ニーズに応じた人材を提供することを目的とした。このような人たちに集まってもらって、1つの場で話し合うことで、ある意味では地域教育会議のようなものが試験的に開催できるのではないか。

(彦坂委員)

市でも人材バンク的なものを持っていると思うが、学校からのニーズがあれば人材を提供する体制が整えられるものなのか。

(伊藤生涯学習課長)

「小金井市市民講師登録制度」というものがあり、講師として市民の方に登録していただき、講師の派遣を希望する市民から問合せがあれば紹介しているが、学校のためだけに作られた制度ではない。現在は問合せがほとんどなく、活用されていない。登録されている講師のスキル等を把握しきれない部分もあり、今後の扱いを検討したい。学校のニーズに応えるということになると、学校特有の事情や一定のスキルを把握し、見極めていかなければ難しい。なお、伊藤委員から説明・資料の配布があった「学校地域支援地域本部事業」については、現時点では文科省が予算要求をしている段階で、詳細等については未定である。

(倉持委員)

人材バンクに関しては、どこの自治体でもシステムはあっても活用されていないのが実情で、教えた人・役に立ちたいと思っている人は多いが、登録しているだけでは活用されないというのが共通した課題。学校と繋がりを持ち、どのように社会教育の意義を高めていくかという点からも、学校支援には都も国も着目している。地域に人材はたくさんおり、やりたい人もいる。学校も手伝ってもらえるのならありがたいと考えている。地域と学校の間立つコーディネーターの役割は非常に大きい。研修会でも、それぞれすでに活動している人たちに、活動状況や課題等を様々な立場から出してもらい、どうすればより充実するか話し合うのも現代的なテーマではないか。

(田中議長)

それぞれの分野で行っている社会教育活動を繋げていくような仕組み作りについて、前回の提言で出された青写真をベースにしなが、個々の活動を振り返り、意見交換・事例発表等できるのではないか。

(田尻委員)

小金井市に子育て支援ネットワークができた。子どもの支援をする各団体がネットワークを作っていないと健全育成は難しい。横の繋がりをどう広げ、深めていくかが重要。ネットワークを広げることで、多くの大人の目で子育てをすることが可能になる。担任対子どもだけの世界ではなく、地域の人とのかかわりが入ると、子どもの心の成長にも繋がる。キーワードは「ネットワーク」になるだろうが、それをどのように具現化していくか話し合えると良い。学校では現在、地域とのコーディネーターの役割を、それぞれの教職員・管理職が行っている。講師はインターネット等で検索、文科省・都教委等に連絡を取る、地域に直接出向くなどして見つけ出している。団体、個人に対して依頼することもあれば、保護者の中にも様々な技術や経験を持った方がおり、そのような外部人材を活かしている。小平市は学校支援が非常に良い形で進んでいて、人材バンクへの登録等も実現しているようだ。年度ごとではなく、二年、三年と継続していかなければならないため、市で一括して人材バンクを整備してくれるとやりやすい。

(2) 生涯学習推進計画の改訂スケジュールについて

(伊藤課長補佐)

現在の生涯学習推進計画は、平成20年度で5年間の計画が終了するので、この5年間を振り返り、平成21年度に向けて新たな推進計画を作成する。コンサルタント会社を入れてまとめて行くことになるが、改訂なので5年間の総括をし、社会教育委員と職員が中心となって作成して行きたい。生涯学習推進計画策定の日程については別紙参照。日程は仮の日程。通常は夏ごろに各課に前年の生涯学習推進計画進捗状況の見直しをお願いしているが、今年度は4月の早い段階に行き、5月中旬には報告できるようにし、たたき台として進めていきたい。12月にはパブリックコメントを受

付け検証し、最終的には2月初旬に最終案を提示、3月末の教育委員会に提出したい。大きく変わる部分は現在の生涯学習推進計画の13ページから16ページあたり。教育基本法が変わったこと、社会行政の見直しが必要であること、前年に地域教育会議に向けての提言を受けているのでその実現に向けての方向性を示す必要性があること等が主な理由。

(田中議長)

昨年までは「小委員会」という形で、少人数のワーキンググループを作り、そこで検討した内容を本委員会へ提案していたが、今回は「小委員会」が「生涯学習推進計画策定委員会」に代わって開催されるということで、本委員会と合わせて月2回程度のペースで集まる必要が出てくる。来年の3月までに教育委員会に提出するため大変かと思うが、前回の提言をこの計画の中に盛り込み、実現へ向けての道筋をつけることができるのではないか。

(3) 三者懇談会について

(田中議長)

三者懇談会とは、社会教育委員の会議・図書館協議会・公民館運営審議会の委員三者が懇談する場を持つもので、例年3月頃に実施されている。各会の都合もあろうかと思うが、いつ頃の実施が良いか。

(伊藤生涯学習課長)

公民館からは金曜日が望ましいと聞いている。全ての方が参加できる日程を探すというのは難しい。今年度は社会教育委員が幹事となるため、この場で日程を決め、図書館・公民館へ連絡したい。時間的には14時からがよいのではないか。

[各委員の予定等を聞き、日程の検討がされた。]

(田中議長)

第一希望は3月14日(金)、第二希望は3月21日(金)としたい。

(彦坂委員)

内容についてはどのようなことを話し合うのか。

(田中議長)

第5ブロックの研修会の開催に伴い、図書館や公民館からもパネリスト等ご協力いただきたく、研修会を実施する予定であるということ等を伝えておきたい。図書館や公民館での学社連携の様子や、今後の展望等様々な話を伺いたい。

(4) その他

・4月からの会議開催スケジュールについて

(田中議長)

現在、社会教育委員の会議は第4月曜日の14時から16時となっているが、新学期から月曜日に大学の授業が入る可能性があることから、来年度の会議開催日について

て再検討したい。3、4週目の水曜日午後か、火曜日の3時以降であれば出席可能かどうか。

(田尻委員)

学校は水曜日に職員会議等の各種会議が入るため、水曜日の開催になると参加が難しい。

(本川委員)

毎週火曜日に仕事をしている。月に1回程度の会議なら何とかなるが、定例会も策定委員会も火曜日に実施となると厳しいため、そのあたりは配慮して欲しい。

(伊藤生涯学習課長)

こちらで調整させていただきますので、後日、都合の良い曜日・日程・時間等を連絡いただきたい。後で事務局宛に予定を連絡する、という方はどなたでしょうか。

[倉持委員、田中議長が後日事務局宛に連絡を入れることになった]

以 上